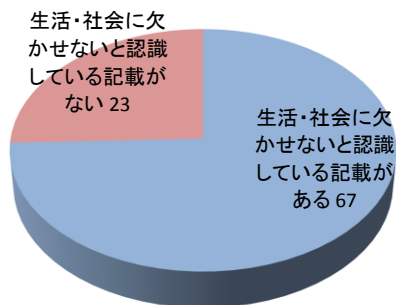


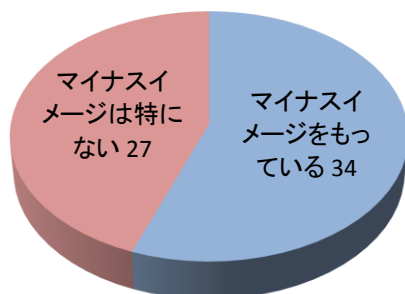
下水道に対する学生のイメージ

- 社会に対する下水道の貢献度や、下水道が生活に欠かせないインフラであることの認識度は高い。
 - 一方で、下水道に対するイメージについては、「臭い・汚い・きつい」の3Kに代表されるマイナスのイメージを持ち、これを改善すべきと考える学生が多い。
 - また下水道業界への就職の動機づけとして、発展途上国の水インフラ整備を担うことができる等、海外を意識したイメージを持っている学生が多い。
- 価値の共有・共創を実現するためには、社会生活における下水道の大切さが認識されていることを踏まえ、次世代の下水道パーソンの発掘に繋がるように、学生等に下水道の魅力を理解させ、イメージアップを図りつつ、共有し合いたい衝動を引き起こすことが重要である。

下水道に対する生活・社会への貢献のイメージ



下水道に対する3K等のマイナスイメージ

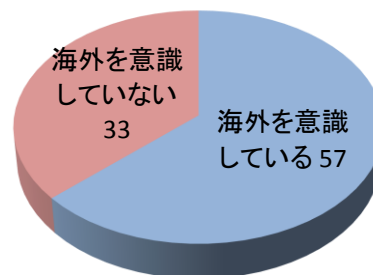


※総回答数90のうち下水道のイメージについて回答があった61票の内訳

【水関連企業へ就職内定した学生へのアンケート】

- ・実施機関：下水道広報プラットフォーム(GKP)-未来会
- ・調査期間：平成26年1月13日~1月31日
- ・対象者：GKP未来会参加企業(7社)の平成26年度入社内定学生
- ・回答者数：90名
- ・アンケート方式：自由回答方式
- ・設問概要
 - 設問①：リクルート活動での水インフラ施策に携わる官公庁又は企業を志したきっかけ並びに水インフラ業界の情報収集方法
 - 設問②：「下水道」を「働く場」と考えた場合、どのような魅力やワクワク感を感じるか
 - 設問③：その他

海外での活躍のイメージ



※GKP-「下水道を未来につなげる会」
学生意識調査結果より